



## 棚田景観の視覚特性に関する研究

### 要約

本研究は、過疎化の農村地域の棚田景観保全に着目し、地域における棚田景観のシーンをベースにした解析を通じ、時の変化に伴う景観変化を加味した地域棚田景観の視覚構造を明らかにすることを目的としたものである。

### 研究者 沈悦

### ■はじめに

農村地域の過疎化や棚田耕作廃棄の拡大などに伴い、農村景観を象徴する棚田景観の保全は大きな課題として社会的関心が高まっている。これに対して多視点からの検討が必要だが、過疎化地域の棚田の全てを保全していくことが難しくなる背景に、地域の優れた棚田景観タイプを重点的に保全していくことがより現実的な一考え方と思われ、地域の代表的な棚田景観のタイプ（代表シーン）の確立とその構造の解明が必要と考えられる。本研究は、兵庫県淡路地域を対象とし、棚田の代表シーンの解析を通じ、時の変化に伴う景観変化を加味した地域棚田景観の視覚構造を明らかにすることと、その構造に基づく棚田景観保全の一つの考えからを探ることを目的とした。

### ■研究方法

文献及び既存研究の整理により棚田（ため池含む）の沿革分布状況を把握する上、現地調査を中心に、それぞれの視点からみた棚田のシーンを整理し、アンケートによる評価を参考した上で景観を類型化（タイプ化）し、これらのタイプに対して仰視・俯視に関わる視角関係や各景観構成要素のシーン上にそれぞれの割合などについて視覚分析を行い、その景観の視覚特性を明確した。また、景観の変化について、代表的タイプを抽出し、年中の変化及び日中の変化（順光、逆光）のシーンデータを整理し、アンケートによる評価を検討し

た上、その景観変化の特徴や良好と感じる季節のシーンを明確した。

### ■結果

- 1) 良好と思われた棚田景観は大凡6つのタイプ（図-1）が分類できる。これらのタイプの視覚的特徴は概ね①棚田への眺望のほとんどは俯視の見方になり、その範囲が大凡俯角 $0.05^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 以内である。また、棚田景観の象徴的な要素である畦道への見込み角は約 $0.2^{\circ} \sim 17^{\circ}$ の間で、視軸に当たられたところは常に見込み角の $1^{\circ}$ 近傍になる場合が多い。これらの数値から、多くの人が良好と感じる棚田景観への眺望は視覚的に見やすいところにあたる視覚構造になっていることがわかった。②各景観タイプの要素構成の分析から、棚田が景観の主題になっていることも関わらず、棚田といった要素と棚田の周辺に存在する山、樹木、民家・集落など周辺要素との関係が深く、これらの周辺要素も棚田景観シーンの形成に重要な役割を果たしており、棚田要素と共に景観演出を行っていることが分かった。この特性から魅力のある景観演出にはこれらの周辺要素が不可欠な位置づけとなることが考えられる。また、この視点から棚田景観の保全を考える際に、棚田要素だけを対象にすることが不十分といえ、棚田の周辺要素も



視野に入れ込んで総合的な検討を行う必要があると考えられる。

- 2) 景観の変化において各季節の特徴が明確されたが(図-2), 年中の水田期, 日中の逆光時(測光含む)に棚田景観の魅力が最も感じられる日時である。この景観変化の中の「日時」に示されたことは1キーワードとして魅力のある農村観光の計画などに参

考を与えることが期待できる。

- 3) 棚田景観保全に向けて, 本研究の分析結果から, 昔の景観形成手法である名景づくり手法をいかし, 地域特性のある美しい棚田景観タイプを地域の名景として固定化けさせ, その視点場, 眺望対象, 視覚関係(見方)を重点的に保全していく手法が提唱できる。

|        |  |   |   |
|--------|--|---|---|
| 近景域    | タイプA 民家・棚田合成型  | タイプB 棚田・自然物合成型  | タイプC 祭祀・棚田合成型   |
|        |  |   |   |
|        | <p>景観要素 民家、樹木、棚田orため池</p> <p>構成特徴 平視的な関係を持ち、視距100m以内。民家と棚田がセットで主視対象となる。</p>                                    | <p>景観要素 棚田+ため池、木、森or屋敷林、山</p> <p>構成特徴 平視orやや俯視の関係を持ち、棚田の視距100m以内。棚田と近景の木や森等がセットで主視対象となり、中景域の山が背景となる。</p>              | <p>景観要素 要素：棚田、祭祀拠点、樹木、集落、山</p> <p>構成特徴 平視又は俯視の関係を持ち、祭祀拠点までの視距200m以内。回塊状の祭祀拠点を棚田がセットで主視対象となり、背景は中景域の集落と山。</p>  |
| 近景～中景域 | タイプD 集落・工作物・棚田合成型  | タイプE 自然物背景型   | タイプF 構造物背景型   |
|        |  |   |   |
|        | <p>景観要素 棚田、樹木、集落・工作物、山</p> <p>構成特徴 平視or俯視の関係を持ち、棚田への視距は数m～数百以内、背後の山までの数kmにわたる。棚田・ため池が主視対象、中景域には民家、山が背景となる。</p> | <p>景観要素 棚田・ため池、木or森、山or海</p> <p>構成特徴 俯視の関係を持ち、視距は数m～数kmの広範囲。典型的谷地形、棚田・ため池が主視対象、広がり感のある景観のなか、中景域の峰々が散在。遠景は山や海にあたる。</p> | <p>景観要素 棚田、高架橋、森、山</p> <p>構成特徴 平視or俯視の関係を持ち、視距は数m～1km以内。谷形の棚田・背景となる構造物が視覚の中心となり、直線型構造物と曲線的な棚田のコントラストが大きい。</p> |

図-1 棚田景観タイプのまとめ

|      |  |   |  |  |
|------|--|---|--|--|
|      | 春(水田期)   | 夏(育盛期)  | 秋(収穫期)   | 冬(休田期)   |
|      |  |   |  |  |
| 景観要素 | 畦道、水面  | 景観要素 畦道、作物(稲)   | 景観要素 畦道、稲掛け、土(切株跡)   | 景観要素 畦道、土面   |
| 特徴   | 畦道(線的要素)+水面(面的要素)の構成で、両者の色とテクスチャの相違点が多く、強烈なコントラストで景観を演出している。 | 特徴 畦道と作物が同質的要素(草のテクスチャ)の構成、相互の色相の差が小さく、緑基調になった棚田景観が春季より明確さを欠けている。 | 特徴 畦道(線的要素)+切株跡のある土面(点的要素)+稲かけ(塊状的要素)の構成で、乱れが生じる一方、構成要素が年中の最も多い時期となり、稲作景観の移ろいが感じられる。 | 特徴 畦道(線的要素)+土面(面的要素)の構成で、棚田景観のイメージがより鮮明だが、両者の色相とテクスチャの差が小さく、水田期ほどの景観魅力はない。 |

図-2 一年中の棚田景観の変化